

平成26年度 第3回 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議 議事録

開催概要

- 1 日時：平成26年11月27日（木） 午前9時30分～11時25分
- 2 会場：白山会館 2階 蘭陵の間
- 3 出席者：委員 11名，事務局（住環境政策課）6名，
委託業者（株式会社サンワコン）3名

議事録

【事務局】

皆さま、おはようございます。定刻を過ぎましたが、これから始めさせていただきたいと思
います。

本日は、大変お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただ今より、
「平成26年度 第3回 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議」を開催いたします。私、
事務局の住環境政策課の課長補佐の石渡と申します。よろしく願いいたします。

会議は公開で行わせていただきます。本日は一般の傍聴の方がいらっしゃらないことをご報
告いたします。

会議の概要につきましては、「新潟市附属機関等の会議の公開に関する指針」に基づきまして、
事務局で作成し、配布資料と共にホームページで公開させていただきます。なお、議事録作成
のため、会議の音声を録音させていただきますので、ご了承願います。なお、本日は建設速報
社さまが傍聴を希望されております。それと併せまして写真撮影も行いたいということでござ
いますので、よろしいでしょうか。

【五十嵐委員長】

わかりました。

【事務局】

はい。ありがとうございます。なお、私の進行の役割は開会に当たっての説明までとさせていただきます。次第2以降の議事進行は、五十嵐委員長にお願いしたいと思います。

次に委員の出欠をご確認させていただきます。本日は、岩佐委員から所用のため欠席のご連絡をいただいております。また加藤委員につきましては所用のため、遅れて出席するという旨のご連絡をいただいております。

それでは、まずはじめに、五十嵐委員長よりごあいさつをお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【五十嵐委員長】

皆さん、おはようございます。11月も終わりになって3回目の会議ということで、本日は、今までご説明のあった4章までをもう一度確認し、新たに5章・6章の部分をご説明いただきます。その後、パブリックコメントにより市民の皆さんからご意見をいただいて、最終的な内容をまとめていくという流れになるかと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、議事に入ります前に、資料のご確認をさせていただきます。と思ひます。

(配布資料の確認)

それでは、開催要綱第4条第2項により会議の議長は委員長が行うこととなりますので、ここからの議事進行は、五十嵐委員長にお願いしたいと思います。五十嵐委員長、よろしくお願ひいたします。

【五十嵐委員長】

はい。それでは順次進めてまいりたいと思ひます。まず、本日の議事録署名委員を決めさせていただきます。と思ひます。平松委員、よろしくお願ひします。加藤委員は少し遅れてこられ

るということですが、加藤委員にお願いしたいと思います。

それでは、まず、事務局から策定方法と策定スケジュールについてご提案があるということですので、まずそちらの説明をお願いいたします。

【事務局】

(計画策定方法と策定スケジュールについて(案)について説明 追加資料)

【五十嵐委員長】

もう1回、会議が増えるということですね。それから成果指標を新しいデータを基に見直していきたいという2点の提案ですが、ご意見いかがでしょうか。

【池田委員】

今のお話は要するに、成果指標はパブリックコメントの対象外とするという意味ですか。

【事務局】

そうです。

【池田委員】

それで問題ないのですか。

【事務局】

もちろんできあがりでしたら、皆さまに公表します。

【池田委員】

公表をしても意見はいただけないわけですね。

パブリックコメントの対象外とすることは手続き的に問題ないのですか。

【事務局】

手続き的には、大丈夫だと考えています。

【池田委員】

そうですか。例えばやり方として「指標に何々を使用します」とか「目標値はこういう数値を当てはめます」という考え方を示して、「統計調査の結果が出たら目標値を設定します」ということで良いのではないですか。例えば、その施策に対して満足する割合を「〇〇データを基に設定します」という考え方を示して、その考え方にパブリックコメントをいただくというやり方が適切なような気がします。

それから、もう1点。1月にパブコメをやるということは12月議会に報告するということでよろしいのですか。

【事務局】

はい。

【池田委員】

分かりました。

【事務局】

私どもとしては、今の本編の中で全く指標について触れないというわけではなくて、指標の設定の考え方は、今までどおり示させていただこうと考えております。例えば、池田委員のご意見のように数字を入れず設定の考え方を示す。成果指標の項目全てを入れていくのか、という点は検討させていただければと思います。成果指標の項目につきましては、この後、6章について説明する際に改めてご意見いただければと思います。

【五十嵐委員長】

では、6章の説明の後、改めて意見を伺います。ちなみに前回の計画では、本編には指標を載せていなくて、「実施状況の検証と見直し」のところで指標の設定について書かれています。

パブリックコメントで指標を市民に示すときには、できるだけ具体的な方が良いと思います。そのあたりのご意見はまた6章のところでいただけたらと思います。

スケジュール等についてはよろしいでしょうか。では会議は5回までということをお願いします。1月下旬に第4回があるということで、日程調整の方もよろしく願いいたします。

それでは、当初議題になっています「新計画（素案）について」に入りたいと思います。今

回新しく示される5章・6章は結構時間もかかるかと思いますが、まず4章までのところで区切ってご説明いただいて、前回からの修正点などについてご確認、ご意見をいただいた後に、5章・6章に入りたいと思います。事務局、ご説明をお願いいたします。

【事務局】

(本冊素案及び新計画の名称について説明 資料1・2)

【五十嵐委員長】

ありがとうございました。では、計画の名称変更の件は少し後にして、今の4章までのところで、前回会議において皆さんにご意見をいただいたところについて修正の提案がございましたけれども、ご質問・ご意見がございましたらお願いします。

1章・2章はよろしいですか。

【朝妻委員】

よろしいでしょうか。まず、2-2の「住生活の現状」についてです。2-2-1の「住環境」で(1)新潟市の「住まいの特徴」ということで、他の政令指定都市と比べて持ち家率・一戸建率・木造率が高いというデータから、新潟は「ゆとりある木造一戸建の持ち家が多い」というふうに結論付けて、その次の(2)の「住まいの特徴」では「西蒲区」「南区」などで「ゆとりある木造一戸建」が多いと書かれていますが、これを「中央区」「東区」「西区」は新潟市の平均より低く、他の区は高いというような言い方に変えた方が良いと思います。

極端な言い方をすると、中央区以外のほとんどの区が他の政令市よりも平均値を上回っているのではないかと思います。中央区は、都市型住居が特徴ですし、それ以外の区は一戸建の持ち家が多いということから考えれば、新潟の住宅の特徴である「田園の戸建住宅から高層住宅」という結論に導いていくことが可能ではないかと思います。これを見ると、西蒲区と南区だけが他の政令市より平均値を上回っていて、新潟市の住まいの特徴が見られるというような印象を受けるので、表現の検討をお願いしたいと思います。

次に38ページの「課題3」の「住宅ストックの継承」というところの「①住宅ライフサイクルを通じ環境負荷の低減を図る必要があります」の下に、「住宅部門において、建設から解体までの住宅ライフサイクル全体を通じて環境負荷の低減を図る必要があります」とありますが、「建設から解体」という言葉にしてしまうと、27ページのライフサイクルのCO₂の排出と

いうところで3割ぐらいを占めている部分を軽減しましょう、というように見えてしまう。このため、この結論が「建設から解体」ではなくて「生活までの」という部分を含める必要があると思います。

以上です。

【五十嵐委員長】

19ページの「住まいの特徴」の説明について、この中で言えば「西蒲区」「南区」は特にゆとりがありますが、他の政令市に比べたら中央区以外はみんなゆとりがあるのではないかという、そういうことを新潟市の特徴として書いたらどうかというご意見でしたが、黒野委員いかがでしょうか。

【黒野委員】

私もこの件に関して朝妻委員のおっしゃることに賛成で、「ゆとりのある」という表現をここで使うのはなじまないと思います。後で出てくる「比較的広い」などの表現の方が適切かと思います。ゆとりがあるかどうかは、住んでおられる方が感じることで、データから言えることではないと思います。現に、このすぐ後に空間の大きさに対する不満率が高いとか、後から子育て支援をされている方の「ゆとりがないので」ということが出てまいります。

ここで全体に「ゆとりがある」と言ってしまうと後の表現と矛盾してしまうと思いますので、ここは「ゆとりのある」という言葉は避けていただいて、客観的な書き方にする方が、整合が取れると思います。

【五十嵐委員長】

18～19ページの方は、全部「ゆとり」と書いてあります。最初の18ページのところで、他の政令市との比較で、他よりも木造一戸建の持ち家が多いという「ゆとり」と、市内で比べたときの「ゆとり」と、そして緑・空間の「ゆとり」。身近な環境・ゆとりに対する不満率が高いと書いてありますが、どういう表現がよろしいでしょうか。

【黒野委員】

例えば、(1)と(2)のところを「ゆとりのある」という表現を、客観的に見て分かる「比較的広い」とか、「全国平均より高い」に変更すれば、より事実に近づくとと思います。

【五十嵐委員長】

18ページについては政令市の中ではトップですが、そういった表現の方が良いのでないですか。

【事務局】

そうですね。データから言えることを表現したいと思います。「ゆとり」という個人の気持ちで左右される表現は避けさせていただきます。

【五十嵐委員長】

現状のときは、できるだけデータを客観的に見て表現するというようにすれば良いと思います。

【事務局】

わかりました。

【五十嵐委員長】

では、19ページの(2)のコメント等も含めて、今のご指摘を踏まえて修正をお願いします。

それから38ページの「建設から解体まで」について、「建設からずっと住んでいて解体」という一連の流れがあるのに、これだけを見ると「建設と解体」みたいになってしまうというご指摘でした。そういう意図ではないですね。

【事務局】

そのとおりです。

【五十嵐委員長】

事務局は、そういう住宅の一生を考えて、住宅づくりを進めるということを言いたいのだと思います。

【事務局】

もう少し分かりやすくするために「生活」という言葉も入れたいと思います。

【五十嵐委員長】

住宅のライフサイクル全体となると、その生活している場面も含まれますけれども、この表現では少し伝わりにくいと感じますので、修正をお願いします。

【事務局】

表現を変えさせていただきます。

【五十嵐委員長】

他にいかがでございましょうか。2章まではよろしいでしょうか。

3章と4章はどうですか。基本理念などは、いろんなところで出てきますので、重要な部分かと思います。41ページの「多様な住環境の中で 地域や家族とつながり安心して住み続けられるまち にいがた」というのが基本理念になります。この前の会議でも、政令市でも非常に大きな田園がある、都市と農村がすぐ近くにあるというのは一つの魅力だというような話があったと思います。それを「多様な住環境」という表現としていますが、何かご意見ございませんでしょうか。

特になければ、これでよろしいでしょうか。

それから44ページの基本目標3と4のタイトルです。基本目標3は、前回私が「低炭素」というのは、あまり一般の人にはなじみがないという話をしたのですが、「環境負荷」の方が環境全体のことにかかわってきて、良いかなと思いました。あと、基本目標4の「希望の暮らしをかなえる」という、このあたりの表現について意見がありますか。

【池田委員】

「希望」とか「かなえる」というのは、この他の目標と照らし合わせたときに、非常にここだけ情緒的に感じます。「希望」というのも、言いたいことは伝わるのですが、もう少し具体的に「求める暮らし方に応じた」などという表現の方が適当ではないでしょうか。「いろんなライフスタイルがあって、それが実現できる住環境があります」ということだと思うので、もう少しブレイクダウンした具体的に近づいた表現にすべきだと感じました。

【五十嵐委員長】

私も「多様な暮らしに対応できる」や「多様な暮らしの要望に応える」の方が良いと思いますが、どうでしょうか。確かに「希望の暮らしをかなえる」というのは、少し大きい感じがします。

【事務局】

ご意見を踏まえて、もう少し身近な表現に変えさせていただきます。

【五十嵐委員長】

4章のところで53～54ページ，A3版のところに，前の会議で頂いたご意見を追加修正していますが，よろしいですか。少し違うというご意見はありませんでしょうか。

では，また後でお気付きの点がありましたらお願いすることにして，ひとまず，4章はここまでとします。

次に計画の名称について，いかがでしょうか。これ以外の案でも，ご意見があればどうぞ。

【加藤委員】

新潟市の次期総合計画の策定を担当させていただいていますが，これが次の8年間を見通すということで，「にいがた未来ビジョン」という名称を付けさせていただいています。ただ今回，少しずつよくなっていくような未来を見据えるという意味であれば，「未来」という言葉があっても良いのですけれども，住宅の基本計画の場合，今の生活が激変するとはあまり思えない中で，「未来」という言葉はなじまないと思います。

【五十嵐委員長】

では，⑥～⑧は消えました。

他についてはどうでしょうか。

【池田委員】

前回の計画は「住まい」という言葉を使っていますか。

【事務局】

「住まいの基本計画」です。

【池田委員】

言葉の定義についてお聞きしたい。「住まい」という言葉は、おそらく「家」単体を指す言葉であると思いますが、そういう単体だけでなく、住み方や暮らし方、住環境を含む言葉が良いと思います。「住まい」というのはどこまで広がるイメージが正しいのですか。

【五十嵐委員長】

難しいのですが、例えば住居学では一戸の家だけが対象かといったらそうではなくて、その人が毎日暮らす範囲ということになります。それから地域も全部含まれています。

【池田委員】

「住まい」というと、地域も全部ですか。

【五十嵐委員長】

地域も入ります。

私も考えたのですが、「にいがた住まい環境基本計画」というのはいかがでしょうか。

【高松委員】

「住まい環境」というより「住環境」の方が良いのではないのでしょうか。

【五十嵐委員長】

「住環境」というのは少し表現が硬いと思います。「住まい」の「まい」はひらがなで書きます。黒野先生はどう思われますか。

【黒野委員】

私は「環境」という言葉、「住環境」ですとか「住まい環境」ですとか、「環境」という言葉を入れることについて賛成します。国土交通省の白書を見ていますと、いわゆるセーフティネットの部分で住宅の内部の面積の話しかなされておられません。この新潟市の住生活基本計画

はそうでなく、いわゆる「住環境」ということに対しても目を配っているというのは、とても大事なことだと思います。実際に、そうした施策を進めていただいているわけですから、「環境」という言葉を入れるのはふさわしいと考えています。

【五十嵐委員長】

下の方に「住生活基本計画」と入るので、上の表現は、少し変えても良いのかと思います。佐藤委員、どうですか。

【佐藤委員】

私も今、資料2を拝見したときに、「住まい」というのを、ぜひ入れていただきたいと思っていました。それからいくと、この中で選べば①か②で、その中にまた「環境」というのを入れてもらえれば、なお良いと思いました。

【五十嵐委員長】

「マスタープラン」となると長くなるから「基本計画」が良いと思いますが、いかがでしょうか。

【佐藤委員】

そう思います。

【五十嵐委員長】

では、皆さんからご賛同をいただければ「にいがた住まい環境基本計画」でいかがでしょうか。それとも「マスタープラン」の方が良いですか。

【加藤委員】

あまり片仮名は使わない方が良いと思います。

【五十嵐委員長】

では「基本計画」とします。

【事務局】

ありがとうございます。

【五十嵐委員長】

他に、今までの4章のところでお気付きの点はございますか。

では、5章と6章の協議に入りたいと思いますので、ご説明をお願いいたします。

【事務局】

(第5章 説明 資料3 第6章 説明 資料1)

【五十嵐委員長】

ありがとうございました。

では、5章・6章どちらからでも結構です。何かご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。林委員どうぞ。

【林委員】

第5章の「重点テーマ」について、「重点テーマ1」は高齢者世帯や子育て世帯について述べられていて、テーマが「高齢者や子育て世帯が安心して健康に暮らせる住環境づくり」なのでそれはそれで良いのかなと思いますが、次の「重点テーマ2」の方は「市内在住の若者」と「U I J ターンの希望者」オンリーのような書き方がしてあるのが少し気になりました。「重点テーマ2」の方は別に若者やU I J ターン者だけではなくて、普通の子育て世代なども住み替えを経験するのではないのでしょうか。そういった方々も含むような表記をした方が良いと思います。

また、「重点テーマ1」の重点施策④「家族や地域とのつながりの推進」は、別に高齢者や子育て世代だけではないようなイメージがあります。少しきれいに分け過ぎているという感じがします。

【五十嵐委員長】

ありがとうございました。テーマは良いと思うのですが、説明の中でよく、「なぜバリアフリーにしたら良いのか」というときに、「弱者に優しいのは誰に対しても優しい」ということを言います。そういう意味で、高齢者や子育て世帯が安心して暮らせる住環境というのは、

全ての人たちにとっても暮らしやすい環境づくりにつながっていくといったことがどこかに書いてあれば、高齢者・子育て世帯以外の方も「地震に強い住宅を造っていかないといけない」というところにつながると思います。ありがとうございました。

他に、いかがでしょうか。

平松委員，どうぞ。

【平松委員】

53～54ページの基本目標2「誰もが安定した居住を確保できる多様な仕組みの構築」の中で、「多様な住宅セーフティネット機能の充実」の下に「市営住宅の適正な管理・運営」とありますが、このテーマの中に「人に優しい住宅」とか、「高齢者のために配慮した住宅」とか、「バリアフリー」の内容を追加して、「こういうふうになるとバリアフリーになる」ということが分かるようにするとよいと思います。

要するに今は文章だけですから、言葉も適切に配慮してあると思いますが、市民が、では現実はどうしたら良いのか見て分かるように、「あそこに行けば分かる」とか、「こういうふうになるとバリアフリーになる」とか、「こういうふうにしたら高齢者に優しい」といったものが現実に見られるようにする必要があるのではないかと思います。特に被災者など弱者の方たちがいらっしゃいますが、改善された市営住宅の様子が目視できるように、この計画の中で指し示していただくと優しいのではないのかという気がしました。

【五十嵐委員長】

ありがとうございます。どういうふうにも本冊を作っていくかという最後の仕上げの方にかかってくるのですが、例えば、今おっしゃった市営住宅で言えば、最近造られた亀田向陽住宅などの事例をもっと増やしていかなければいけないのですが、そういった事例の写真を入ると分かりやすいというご意見でした。ありがとうございました。

他の方はいかがでしょうか。5章については、林委員からのご意見がありました。

【遠藤委員】

5章の最初の「重点テーマ1」の方の重点施策①で、「快適に暮らせる住宅づくり」の中に「健康寿命」という言葉を入れたらどうでしょうか。

高齢者や子育て世代が快適に暮らせるよう、ここの全体の文章の中に「健康寿命を延ばす」

というのを入れてもらえると「具体的な取り組み例」の「スマートウェルネス住宅の普及促進」に合ってくると思います。

【五十嵐委員長】

ありがとうございました。新潟市で健康寿命を延ばすようにしなければいけないと思います。

【事務局】

そうですね。

【黒野委員】

5章の「具体的な取り組み例」のところをもう少し増やしていただきたいと思います。例えば57ページの重点施策④のところの取り組み例です。先ほど平松委員もおっしゃいましたが、亀田向陽住宅など、実際にバリアフリーを実施している例を提示すると良いと思います。地域施設と連携のある市営住宅の推進など、「こういうところに行くと、こういう取り組みがあります」といった例を入れていただくと良いと思いました。

【五十嵐委員長】

今までもやっているけれども、さらにこういうものを推進していく、という意味で過去の事例を載せるというのは分かりやすく良いと思います。

【加藤委員】

言葉の問題ですが、テーマ1の重点施策④「家族や地域とのつながりの推進」ですが、「強化」の方がふさわしいと思います。

また、全体として「推進」とか「促進」という言葉の使い分けができていないなと思いました。市が率先してやるものは「推進」、住民の皆さまにやっていただくのは「促進」ということで促して進める。そういう使い分けを、59ページもそうですけれど、少し考えていただきたい。そこで、例えば今の黒野委員がおっしゃったように、市が進めていくのは「推進」ということで「取り組み例」の中で、実際にやり、今後推進していくということが分かるように表現すると良いと思いました。

【五十嵐委員長】

他にいかがでしょうか。55ページのテーマの説明の文章の下から4行目、「十分である世帯が存在する」の「存在」という言葉について、ある人が「「存在」は哲学的な言葉だから、そうそう使うものではない」と言われていたので、「世帯が多数ある」などと置き換えて、「存在」という言葉を使わない方が良いと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

【五十嵐委員長】

5章は、もう、よろしいでしょうか。では、また修正の意見が出ましたのでよろしく願いいたします。

では、最初も話題になりました6章はいかがでしょう。

【池田委員】

61ページの「推進体制」ですが、いくつかある部門の中で「景観・都市計画部門」とありますが、基本的施策にある「緑の保全・創出」や「浸水対策」に関わる土木部や下水道部も住環境、住生活に深くかかわってくるので、例えば、「都市整備部門」など、土木や下水道部門もにじんでくる表現が必要だと思いました。

【加藤委員】

そうですね、今言われるようなインフラ整備の部分も考えた言葉にした方が良いと思います。

【五十嵐委員長】

よろしく申し上げます。

【池田委員】

それから、この基本的施策の中で「身近な緑」や「交通」とありますが、住環境、住生活で言うと、「ゾーン30」という取り組みもありますが、生活道路の中で安全な歩行空間の確保に関する内容が欠けたような気がします。

【五十嵐委員長】

どこに、どんなふうに入れると良いですか。

【池田委員】

高齢者が移動しやすいということを考えると、「歩く空間のさまざまなバリアフリー化」とか、「ゾーン30」など、車があまりスピードを出せない環境を整えていくことなどが考えられます。説明文章の中にそういった内容が触れられると良いと思います。

【五十嵐委員長】

「基本目標1」の「基本的施策1-1」で「住宅敷地内のバリアフリー化に対する支援」とありますが、その敷地から離れた「身近な道路環境整備」となると、公道と私道の違いにより、「では、誰が整備するか」という点でなかなか難しい面もありますが、本当は重要なところで

す。

「家の中はバリアフリーだけど、外へ出られない」という状況ではいけない。

【事務局】

実は、私どもも内部で話が出ました。19ページをご覧ください。

「生活関連ニーズ」の上から5つ目「まわりの道路の歩行時の安全」という中で、これは生活ニーズのアンケートですが、この部分について内部で協議をしました。ただ、先ほど委員長がおっしゃられたとおり、どこで区切るのか、住環境の部分としてどこまで計画に載せてそれを担っていくのかというところは、私どももすごく悩んだところです。池田委員の言われることも十分認識しているのですが、今回は、あえてそこは載せなかった部分ではあります。

【池田委員】

例えば、基本的施策の「快適な暮らしを支え公共交通の維持・確保」を「公共交通・歩行環境の維持・確保」としてはどうか。

【事務局】

それであれば、うまく表現できるかもしれません。

【池田委員】

要するに「歩いて暮らせるまちづくり」のような表現になれば良いと思います。

【五十嵐委員長】

今のところに「歩行環境」と入れても、市でできるところと、できないところがありますが、よろしいですか。

【事務局】

私どもとしては、住宅とまちが一体となる環境を実現していけると良いと考えているので、ここでの表現としては今のようなかたちでよろしいかと思います。

【五十嵐委員長】

そうですね。

他にどうでしょうか。

最初にパブコメでどこまで公表するかという話がありましたが、この65ページのこのかたちを今の段階で出すのか、それともこれはやめるということでしょうか。

【事務局】

先ほど説明させていただいた65ページを全て公表するのは難しいと思いましたが、先ほど池田委員からのご指摘のとおり、もし出すとしてもアウトカム指標の部分で、今後、こんな考え方で設定していくという表現はできると思います。

【五十嵐委員長】

そのあたりを整理して出すということですか。

【事務局】

きちんとした数字は出せないと思うのですが、設定の考え方、概念は示せると思います。

【池田委員】

61ページに、アウトプット指標とアウトカム指標の考え方があるので、これはパブコメの材料になると思います。それで、例えば、指標はこういう項目が挙げられて、その目標値のもととなる最新データの公開はいつ頃でという説明があれば、目標値は空欄でも良いと思います。

【事務局】

今後そういった考え方を示させていただきたいと思います。アウトプット指標については、先ほども少しご説明させていただいたとおり、27年度の事業を加味しながら考えていきたいと思っています。

【五十嵐委員長】

そうですね。全部出さなくても例としてあった方が良いと思います。

【事務局】

分かりました。

【池田委員】

今のところ、65ページのアウトプット指標、アウトカム指標は、合わせて17項目が挙がっていますが、地域にとってどういう暮らしができるのかという観点から考えるとアウトカム指標が大事になります。究極に言えば⑩の「住環境に対する満足度」を上げることです。

とはいえ、アウトカム指標は、毎年数値を確認するのも現実的ではないですし、項目も細かくできないので、アウトプット指標を挙げて毎年目標値を確認するというやり方は、良いと思います。その上で、53～54ページで挙がっている基本的施策に対応するアウトプット指標は全て出すべきだと思います。例えば「身近な緑の保全・創出」は、新潟市の緑被率とか、公園の一人当たりの面積という指標が考えられます。今回の案を見ると、他の部署に関するものはあまり挙がっていないようですが、基本的には計画に挙がっている基本的施策に対するアウトプット指標は全て設けた方が良いと思います。

【五十嵐委員長】

全部の施策について指標を設けると、関連する他部門の施策は大変かなと思いました。住宅部門が取り組む施策の指標は全部あったとしても、他部門が取り組む事業・施策の指標は、一

番関連するものを示して、特にこれらについてはチェックしていきますという段階があっても良いと思いました。それは市民目線でいくと「計画だけでなく、きちんと取り組んでいるな」というのが分かって良いと思うのですが、難しいですか。

【事務局】

指標については、別冊にさせていただいて、アウトプット指標の方は正式には来年度予算の事業でぶら下げられるものを表現したいと思っています。今、池田委員が言われたとおり基本的施策に関連する事業ということですが、現時点の事業がどこの基本的施策に位置づけられるのかという検証はしております。現計画の中でも毎年、各施策にぶら下がる事業の進捗よく状況を確認させていただいております。

同じようなやり方になるかもしれませんが、池田委員が言われたように、それぞれの施策にぶら下がる事業を示していくことになるかと思います。ただ、今までは「このようにしてやります」「このようになりました」という結果だけをお示ししていましたが、今度は指標という考え方になりますと、その事業ごとにある程度目標を設定しながら、年度当初にお示しをして、また次の年の初めにその検証をしていくという事業の進行管理といっしょにアウトプット指標も示していければと思います。また、補助事業ですと1年2年で目標値も変わったりもしますので、それを進行管理といっしょに管理していければ見やすくなると、ご意見をお聞きして思いました。また、別冊になれば、新しい事業の入れ替えもしやすくなりますので、良いのではないかと考えております。

【五十嵐委員長】

他にいかがでございましょうか。

【加藤委員】

65ページの成果指標についてです。

一つは⑧の「社会動態」というのは、住宅施策の指標としてはなじまないと思います。これは新潟市として雇用の確保とか、少子高齢化に対する国の施策とか、教育とかかなり様々な施策があって、それが社会動態に影響してきているので、住宅施策が頑張ったから、新潟にみんな入って来てくれるかという非常に難しい。18歳以降は決して住宅施策で転入するのではなくて、大学、専門学校の魅力や数といったような部分が大きいので、これはなじまない感じが

します。

それから、⑮の既存集落での開発許可の件数について、いわゆる田園集落等に住んでくださる方が多くなってくることを期待していると思いますが、これも、この開発計画の件数が施策に応じてすぐに増えるのかという点、よく分からないので、少し検討していただきたいと思います。

もう一つ、⑰の「住環境に対する満足度」は、まさに全部に関わる指標になります。先ほど池田委員もおっしゃったとおり、これが究極の指標となるので、この1～4の目標のどこかに入るのではなくて全部の成果として考えられる。目標4に、それが入ってくるのも、大き過ぎるので、全体で見たら一枠プラスという考えにしないと、少し据わりが悪いと思いました。以上です。

【五十嵐委員長】

他にいかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。今回の案を修正されたものがパブコメにかけられる。それから議会の方にも報告されますが。

【事務局】

アウトプット指標については、今、加藤委員からもご指摘があったのですが、今後新しい事業を見ながら、目標ごと、施策ごとに設定して、先ほどのスケジュールの第5回の会議のときに確定させていただきたいと考えています。また、アウトカム指標でご意見のあった⑰の「住環境に対する満足度」が全体にかかるということですが、実はこれから、今日ご意見をいただいた内容を修正して12月の議会の方に報告させていただこうと思っています。本日は指標部分を案というかたちで目標値を入れない表現ということで、ご意見をいただきました。またパブコメでもご意見をいただき、修正をかけて、5回目の会議でご提示させていただきたいと思っています。したがって現時点では、できればアウトカム指標だけを案ということで載せさせていただきたいと思っています。よろしいでしょうか。

【平松委員】

計画については、パブリックコメントなどをふまえてまとめていただくのですが、これに、新潟における自然災害に関するデータ、例えば、平均で年間何回の地震がきたとか、降雨

量がどうだとか、台風の影響はどうだったとか、川の増水がどうだったとか、そういうデータもいっしょに掲載してはどうかと思います。そうすると、耐震など、自然災害に対する備えに繋がっていくと思います。そういう自然現象に関する資料も整理していただくと、見る人に優しいと思います。

【事務局】

今回お配りした参考資料、本編には入らないのですけれども、災害リスクの状況も入っています。巻末資料編の方であれば載せさせていただきたいと思います。

【五十嵐委員長】

他にご意見いかがですか。

【黒野委員】

5章の59ページの重点施策②の「魅力ある田園集落づくりの推進」の「具体的な取り組み例」についてです。ここの①と②がとても似た表現になっています。上の文章で「若者やU I J ターン希望者に」という文言がありますので、一つはこちらの表現を使うと良いと思います。この表現は、そのすぐ上の重点施策①の「具体的な取り組み例」の③のところにもありますので、同じように、「若者やU I J ターン希望者に向けた短期宿泊や空き室情報の提供」などとして、田園集落を対象にそういう情報を提供して来ていただき、あわせて、農業体験をやってみたい方にはフォローがあります、という情報提供をするという内容に書き換えができるなら、その方が良いと思います。

【事務局】

修正させていただきます。

【五十嵐委員長】

他に何かございますか。どうぞ。

【佐藤委員】

この53～54ページの基本目標3の真ん中の「リフォーム市場の環境整備」の文章ですが、

誰にも分かりやすい言葉で書いた方が良いと思います。こちらの「リノベーション」という言葉を、例えば「大規模改修」ですとか、パッと見て分かるような言葉で書いてもらった方が一般市民の皆さんには良いと思いました。

【五十嵐委員長】

今となっては当たり前の言葉もありますが、出始めというのは、関係者はよく分かるけど一般の人は分からないということがあります。

【事務局】

そうですね。

【加藤委員】

資料編に用語集を付けてもよいと思います。

【五十嵐委員長】

欄外に書くなどのやり方もあります。

【事務局】

わかりました。

【五十嵐委員長】

他は、いかがでしょうか。

【朝妻委員】

全体で第4章まで順番にきて、第5章に重点テーマがきて、そこまでは分かります。重点テーマから第6章の65ページ「評価指標」に飛ぶと、第5章がポンと抜けているような感じがします。私だけかもしれませんが、第5章の重点テーマがあって、それに対する評価指標という方が、順番からいけば良いのかと思います。これを見ると第5章がポンと抜けて第4章の施策の評価指標となっていますが、評価指標とこの重点テーマがつながっていないような感じがします。

【事務局】

5章の重点テーマは、4章で出ている基本的施策を重点テーマごとに重点施策として整理して挙げています。ですので、評価指標は、5章の重点施策もいっしょに確認できると考え、このように作り込んでいます。

【五十嵐委員長】

6章はどちらかといったら、これからPDCAサイクルを回すためのことで、内容が少し離れているので違和感を持たれるかもしれないですが、流れとしては、今回はこのかたちで良いと思います。

【朝妻委員】

わかりました。

【五十嵐委員長】

よろしいでしょうか。

では、指標の部分につきましては、今はまだ案ということです。その他の内容、基本計画につきましては、今日のご意見をもとに事務局で整理していただいたものをこの会議を踏まえた案として議会に出していただく。その後、パブコメもありますが、1月の会議でパブコメ案を再確認し、評価指標についても確認させていただく予定となります。

では、今日はありがとうございました。

【事務局】

本日は長時間にわたり計画素案について、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。

それでは、以上をもちまして「平成26年度 第3回 にいがた住まいの基本計画推進有識者会議」を閉会いたします。本日はありがとうございました。

<議事録署名>

委 員 長 _____ (印)

議事録署名委員 _____ (印)

議事録署名委員 _____ (印)